

会 議 録

会 議 名	第 1 回野田市生物多様性のだ戦略市民会議
議題及び議題ごとの 公開又は非公開の別	【議題】 (1) 会長、副会長の選任について（公開） (2) 報告 1 「コウノトリの野生復帰に関する意識調査」結果報告（公開） (3) 報告 2 45 事業の進捗状況について（公開） (4) 協議事項 1 社会環境調査結果報告について（公開） (5) 協議事項 2 尾崎金島影響調査内容について（公開） 【その他】 今後のスケジュールについて
日 時	令和 7 年 3 月 2 8 日（金） 午前 1 0 時から正午まで
出席委員氏名	【対面参加】 会長 長谷川雅美 副会長 茂木康男 委 員 本田裕子、新保國弘、田中勝美、柄澤保彦、岩槻秀明、石川祐一、岡安誠人、矢口勇二、香西陽一郎、押田一彦、鈴木哲雄、萩原義則、菅谷光夫、柳澤 勉、浅井裕子 【リモート参加】 委 員 朽津和幸
事務局	鈴木 有（市長） 宇田川克巳（自然経済推進部長） 荒井哲也（下水道課長） 茂木嘉則（みどりと水のまちづくり課長） 野島真紀（みどりと水のまちづくり課課長補佐） 池上真理子（みどりと水のまちづくり課自然保護係長） 後藤旭（みどりと水のまちづくり課自然保護係主事補）
欠席委員氏名	なし
傍 聴 者	4 名
議 事	第 1 回野田市生物多様性のだ戦略市民会議の会議結果（概要）は次のとおりである。

1 開会

《事務局：野島課長補佐》

第1回野田市生物多様性のだ戦略市民会議の開会を宣言。

委員総数18名のうち17名（うち遅参2名）が会場参加、1名がリモート参加、計16名が出席となり、半数以上が出席しているため、条例の規定により会議成立する旨を報告。

今回の会議は希少種などのデータを取り扱わないため傍聴が可能であること、また、傍聴希望者は4名であることに御了解を頂く。

2 市長挨拶

3 市民会議開催の経緯について

《事務局：宇田川部長》

これまでの「野田市生物多様性のだ戦略市民会議」の開催と再開の経緯についての説明。

4 委員紹介

《事務局：野島課長補佐》

委員及び事務局紹介を実施

5 議題

（1）会長、副会長の選任について

《事務局：野島課長補佐》

本日は1回目の審議会となるため、会長、副会長が不在となっていることから、会長が選出されるまで、市長に仮議長を務めていただくこととする。

《仮議長：鈴木市長》

会長選出については、野田市生物多様性のだ戦略市民会議条例第5条第1項の規定により、委員の互選によることとなっているが、その方法について意見を伺う。

《委員》

指名推薦でお願いしたい。

《仮議長：鈴木市長》

指名推薦との意見があったが、異議はないか。

（異議なしの声）

《仮議長：鈴木市長》

異議なしのため、指名推薦により選出する。推薦をお願いする。

《委員》

長谷川委員を推薦する。前回の市民会議において会長をやっただき、また豊富な知識をお持ちであるので適任と思われる。

《仮議長：鈴木市長》

ただいま長谷川委員を推薦いただいた。本市民会議の会長に長谷川委員を選任することによってよろしいか。

(「異議なし」の声多数あり)

《仮議長：鈴木市長》

異議なしとのことなので、長谷川委員に会長をお願いする。会長が選任されたため、以後の議事進行につきましては会長をお願いする。

《会長》

会長に選出されたので、御挨拶申し上げたい。

改めて、この市民会議が野田市の自然再生や生物多様性の取組を広げて、自然と共生する地域づくりを進めていくための大変重要な会議であることを認識している。事務局の方から、幾つかの課題について皆様の十分な御審議を頂きますように、是非お願いをしたい。

それでは、私の方から、議長としての議事を進行させていただく。

《会長》

副会長の選任について、事務局からの説明で、互選ということだが、その方法について意見を伺う。

《委員》

指名推薦でお願いしたい。

《会長》

指名推薦との意見があったが、異議はないか。

(異議なしの声)

《会長》

異議なしのため、指名推薦により選出する。推薦をお願いする。

《委員》

茂木委員を推薦する。皆さん豊富な知識、経験をお持ちなので、指名も大変難しいが、副会長

については、会長と異なる選出区分ということ考慮し、自然保護団体から推薦する。茂木委員は、前回の市民会議で副会長をされており、経験も豊富なので適任と思われる。

《会長》

ただいま茂木委員を推薦いただいた。本市民会議の副会長に茂木委員を選任することによりしか。

(「異議なし」の声多数あり)

《会長》

異議なしとのことで、茂木委員に副会長をお願いする。

(2) 報告1 「コウノトリの野生復帰に関する意識調査」結果報告

《本田委員》

資料1を説明

《会長》

コウノトリをシンボルとして、野田市民の皆さんの生物多様性への意識を高めていくために何をしたらよいのか、正直な皆さんの意識をしっかりと集約した形で報告いただけたと思う。市民会議の中で皆様とともに考えていきたいので、そのための大事な素材を御提供いただけたと考える。

《事務局：野島補佐》

鈴木市長は他の公務があるため、退席することを報告

(3) 報告2 45事業の進捗状況について

《事務局：池上係長》

資料3を説明

《会長》

この後、皆様の御意見などについては、次の協議事項1、社会環境調査に基づいた今後の取組の後に、併せてお話を頂きたい。

(4) 協議事項1 社会環境調査結果報告について

《事務局：茂木課長》

資料4を説明

《会長》

特に印象深いのは「自然が欲しいとは思わない」という回答が前回の 16%から 3.4%まで減っていたこと。自然が大切だという気持ちが市民の皆さんに浸透していると感じる。コウノトリをシンボルとする取り組みが、市の施策の目玉としてだけではなく、そのこと自体が市内の環境をよくしていくことに浸透していること、恐らく 10 年前の前回の環境調査から時代が進んで、新しいお母さん、お父さんが市内に移住、あるいは、ここで子育てを始めたいという人の中で、親から子に伝わっているのではないかと。このようなことを行っている市はなかなかない。きめ細かにやっていただいていると思う。

《委員》

小学校の校区ごとに違いが出ると思うので、今後やっていただければと思う。アンケート調査でも報告したが、生物多様性の認知度がなかなか上がっていかない。小学校 5 年生の子が、生物多様性をどのように学習しているのか気になる。

《事務局：宇田川部長》

学習については本日委員として校長先生がお見えになっているので、是非御紹介をいただければと思う。

また、アンケートをやることも生物多様性を周知すること、いろいろなことに疑問を持って答えてもらうことも環境教育の一つとなっていると考えている。

《委員》

福田第二小学校では、今年度の総合的学習時間の研究教科として、3 年生が江川地区の自然をテーマにフィールドワーク等も兼ねて、委員の先生にも御指導を頂き、かなりの時間を費やして歩いて、いろいろな昆虫や水生の動物等も捕まえては、行政の方の方にもお話しいただいて、発表したものをみていただいたりしている。

「こうのとりの里」にも 5 年生が訪問し、野生で飛んでいるコウノトリを 5 回ぐらい見ており、生物多様性に関わる授業、学習をしているところについては、学校としてはほぼ 100%行っている。

4 年生は、自然観察や地域の自然に関わる地域への福祉活動の授業があるが、3 年生と 5 年生は恐らく生物多様性の意味を知っている者が 100%、4 年生については、その意味を知っているという子は恐らく 20~30%くらいではないか。

福田第一小学校は全学年が三ツ堀里山自然園で自然観察をしており割合はかなり高いと思う。

逆に、自然に関わる学習をしていない学校であれば、10%、20%行くくらいではないか。

結局、どのようにして生物多様性というものを子供たちにうまく伝え、教えるかということ。それを、学校のホームページなど、いろいろな形でもって学校からも発信できるような形を取るの、今自分たちにできることである。

3 年生と 5 年生については、子供たちが作った「コウノトリのことをもっと知ってください」というのを、いろいろな人に知ってもらおうというスライドを作ったので、みどりと水のまちづ

くり課にも相談して、学校のホームページへの掲載準備をしている。

《委員》

学校ごとのアンケートで、取り組みができてい学校や少し課題の箇所などが見えてくるのではないかと思う。

《委員》

今のお話について、私も24年前に野田市に引っ越してきて、ここで子育てをしている。子供は南部小学校だったが、そのときには「このとりの里」の見学はなかった。

自然に関する学校の授業で印象に残っているのは、近くにある田んぼに虫取りに行ったことと、あと、ザリガニ釣りをしたぐらいで、自然に関する教育が少なかったという印象がある。今では、福田地区の小学校、中学校は「このとりの里」の近くだったり、三ツ堀里山自然園の近くということで、環境があるので、すぐにそういうところを見学できたりするが、南部地区とか中央地区の小学校、中学校はそういう取り組みがないという印象がある。また、子供館とか公民館のイベントとかも、子供が小さい頃にいろいろと参加したが、工作とか化学実験はあっても、自然を観察する会とかいうのはなかったという印象がある。

《事務局：宇田川部長》

以前は取り組みが少なかったということで、戦略を定め、今は南部梅郷公民館で生物多様性の講座を始めている。

まだ始まったばかりという印象もあるかもしれないが、子供たちも校外学習、「今度、校外学習に行きましょう」とか、校長先生たちも授業カリキュラムの中でいろいろ工夫して、以前に比べて、そういった子供たちへの教育というところが強化されてきていると認識している。その辺は、授業効果の検証の中で、これぐらい成果が上がって、強化していきますよというのも今後報告させていきながら、皆さんの御意見を頂きたい。

《会長》

意見については、もっと子供たちが自然に触れ合う機会とか場所を増やしてほしいと応援していただいていると受け止めた。野田市としても、また、ここに委員として参加して下さっている皆さんもその方向では是非頑張してほしい。

(5) 協議事項2 尾崎金島影響調査内容について

《事務局：茂木課長》

資料5の説明

《会長》

皆さんが子供の頃から見知っていた場所が、今後も野田で暮らす皆さんの子育ての場となる。

そういう場所をどうやって継承していったらいいのか。市民の皆さんからも、また企業で、野田市内で活動されている方も含めて、広く御意見を頂きたい。

《委員》

谷津のすぐ近くの西武台千葉高校が学習の場として谷津に興味を持っており今年度から学校の生徒と一緒に観察会を実施している。来年度も継続したいという意向を頂いている。

また、私も谷津には深いところまで踏査で入っているが、丁寧に精査すると、ここに挙がっているもの以上に希少なものとかが出てくる可能性があり、しっかり調査できるような体制を作りながら入っていけたらいいと思う。

ここは湿地というか、休耕田になっているところもあり、かつてそこにいた水生植物が復活する可能性は否定できない。水辺の植物が眠った状態でずっといて、環境の変化が起こる復活する可能性がある。土をかき混ぜて、少し水の張ったところに置いて、何が出てくるかという調査など、そういう調査を加えてみてはいかがかなと思う。私は植物が専門なので、植物という観点からの意見となる。

《委員》

私も西武台千葉高校などでこの谷津には結構入らせていただいていたいて、野田市内に残った大切な谷津の一つという観点で観察を続けている。

この令和3年でこれだけの成果が上がったとのことで、最後のページのところに植物から昆虫類まで含めての調査報告があるが、これはどこで行った調査なのかお伺いしたい。

それから、(4)「調査の実施内容」のところで、例えば陸生動物のところ、「調査の実施項目」の①、②、③というふうに枠をつくられているところの②の陸生動物で、「春・秋・冬」というふうに夏が抜けているが、これはどういうわけなのか。その理由を知りたい。1回ずつの調査で加えられていくものというのは増えていくはずなのに、どうしてここで外しているのか。

《事務局：宇田川部長》

調査方法については検証させていただく。

調査結果がばらばらになった理由は、地元の皆さんから、「ビオトープにしてほしい」という要望書が提出された中でこの場所を本当に拠点として守っていく場所なのかどうかという、潜在調査という形で環境調査をやらせていただいた。

急ぎで行った調査で全て網羅した結果になっていないというのが、実質、今回再度調査する理由になっている。

一番は湧水とか、植物とか、そういうものがあるのか、守っていくのか、それについて、地元の地権者の皆さん、地権者組合の皆さんにも説明しなくてはいけない。なおかつ、ここは守っていく場所という形で市でも考えたい。そういう戦略の中に自然環境調査地点という形でしっかりうたうための調査を行ったというものなので、全部含まれていないという状況である。

将来的にビオトープ整備計画を作っていこうと考えている中で、当面の間、保全管理して守っ

ていこうという形で、今は委託業務で、草刈りの方も実施させていただいている。

今回、下水道工事、水路整備といったものの工事を行うに当たって、やはり湧水とか、生き物に与える影響というのは非常に大きいのではないかなという形で、事前に調査をさせていただきたいということで、本日、議題に上げ、今後、調査方法については、これから準備に入っていくので、次回の会議には「こういった形で」という形でお示しできるかと考えている。

《会長》

改めて思うのは、市内全域の自然環境を知っている市民の皆さんと市役所の皆さんによって、全体のどこに注目しておくかをあらかじめ考えておき、それを整備するとなるときに何らかの予算が必要なので、市の政策として下水道工事をやるとか、あるいは国の整備をやるとか、そういうときのタイミングをうまく生かして、実際に予算をつけて整備を進める。

同時に地元から声が上がるといえるのはとても大事なことで、そのタイミングをうまく捉えてこの市民会議に議題としてあげていただいたと受け止めている。

《宇田川部長》

くり堀川の工事が終わって、今後、下水道の工事の計画を立てていく段階に入ったので、3か年の影響調査を考えて、今回、議会で予算の承認を頂いた。しっかり調査してやっていきたいと考えている。前回の調査からもう5年経過しており、恐らく、ここで一生懸命活動している環境団体の方もいらっしゃるので、多少変わってきているという現状もあるので、御意見を頂きながら保全について進めていきたいと考えている。

《委員》

今日も午後から西武台千葉高等学校の生徒さんたちと来年度4月からの活動をいつ、何をやりたいのかということの打合せをする。地元の学校の生徒さんたちがそこに興味を持って、調べたいことをつくるというのはすごく大事なことだと思うので、私たちも協力させていただこうと考えている。

《会長》

とても素晴らしいこと。学校の校長先生や生物の先生とか、そういう先生方が生徒さんの活動をちゃんと見守って、やれているのだなというふうに感じる。

《委員》

影響調査については、くり堀川の下水道整備が終わったからその影響を確認するということがか。

《事務局：荒井下水道課長》

くり堀川は、今、環境影響調査をしようとしているもっと下流側の方に位置している。そこに

流入している水路は、くり堀川の最上流を起点（最下流）として、尾崎金島地区、日の出町地区を通り、七光台小学校の方まで伸びている。

環境影響調査をする場所は、この水路の最下流域に位置しているが、くり堀川の整備が概成となったことから、今後、上流の住宅地の浸水被害を軽減するために、水路改修を伴う下水道施設を整備していく場所と重なる。よって、水路改修を今後計画するに当たり、金島地区の動植物や湧水などを事前に調査していただき、これらを守りつつ下水道施設を整備するための手法について議論して参りたいということが主旨となる。

《委員》

市内の雨水調整池の生物調査に協力しているが、雨水調整池の環境がいいと感じる。大雨のたびに水が入って抜けるとかいうのを繰り返しながら、かく乱が入るので、いい氾濫源の環境になる。尾崎金島谷津のような休耕田になっているようなところは雨水調整機能を持たせたビオトープという形に持っていってもいいのではないかと個人的に思う。防災とリンクしたいいいビオトープを作れると個人的にはいいなと思っているので是非お願いしたい。

《会長》

正に、そこをどうやって将来に継承するか。ただ、そのときに、防災や減災とかいった観点から対策を、地元のことをよく知っている皆さんが組み立てて、予算をつけているという、そういう会議の、今日はまず口火を切っていただいた。是非とも、お二人も含めて、この会議の中でそれを要請していければと思う。

《委員》

私は、この尾崎金島の江戸時代の農業というか、村人たちの生活に興味を持っている。例えば、尾崎金島を含む尾崎村の江戸時代の絵図や検地帳とか、明治初期の旧公図及び陸軍迅速測図・陸軍偵察録など、そして、明治・大正期の耕地整理組合や土地改良区関係の史料発掘を行うのも意義があると、本市民会議で位置付けられるのであれば、是非お手伝いをさせていただきたい。

例えば、新保がかつて行った野田市域の検地帳調査のときに、「延宝三年（1675）八月の尾崎村田検地水帳」という古文書名があったからである。ただし、当時、検地帳の現物まで確認はしていない。

次に、尾崎威徳院門前の左手に、宝永二年（1705）九月建立の笠（かさ）付き型の大日如来座像を彫った「廻国（かいこく）塔」という種類の大変立派な石造物がある。私を石造文化財調査の世界に誘った木間ヶ瀬の石田年子さん（野田市文化財保護審議会委員ほか）の調査報告によれば、本廻国塔は野田市最古の廻国（かいこく）塔にして、千葉県でも5番目に古い廻国（かいこく）塔、と記している。廻国（かいこく）塔というのは、法華経（ほけきょう）を六十六部書き写し、江戸時代で言えば伊賀国、下総国、常陸国など全国六十六か国を巡り、国ごとに代表的な社寺一か所に一部ずつ法華経（ほけきょう）を納めることを目的とした、廻国（かいこく）の巡礼者が建立したものである。

加えて、この尾崎金島の湿地全体を眺められて、しかも一番景観が優れているビューポイントは、毘沙門天（びしゃもんてん）・威徳院近くの旧道三叉（さんさ）路に建っている六地藏の辺りではと思っている。この六地藏は、五代綱吉の時代の宝永三年（1706）に建立された「宝珠角塔六地藏道標」と呼ばれる石造物で、正面、右面と左面の三面に六つの地藏さんが浮き彫りにされている。この六地藏は道標（みちしるべ）も兼ねていて、「右 じおんみち（岩槻の慈恩寺に至る道）」「左 えどみち（江戸に至る道）」という銘文が彫られている。

これら3つの事例から、延宝（1673～）から、天和（てんな）、貞享（じょうきょう）、元禄（げんろく）、宝永（～1710）にかけて尾崎村の村人たちは、尾崎金島地区の水田でも稲作を営みながら、旧道の三叉（さんさ）路に旅人のために道標を兼ねた六地藏を建立し、尾崎金島の毘沙門天（びしゃもんてん）・威徳院を訪れた法華経（ほけきょう）の巡礼者は、威徳院の門前に廻国（かいこく）塔を建てて、日本六十六国の廻国（かいこく）成就を祝い、手を合わせたのではないかと思う。

《会長》

改めて、深みを持った議論ができるきっかけというか、それを知ることができたなと思う。今日はスタートの日なので、今お話しいただいたようなことを含めて、この会議からスタートした尾崎金島の整備と、2案に入れたビオトープ整備ということのをうまく織り込んだ形にできたらなと思う。

とても重要な議題として出していただいたが、時間の関係もあり次の「その他」に移らせていただきたい。

6 その他（今後のスケジュールについて）

《事務局：宇田川部長》

本日は市民会議の第1回という形で、こちらから45の事業の進捗状況と、今回の議題、継続的に御意見を頂きたいということで、尾崎金島の影響調査について御意見を頂きたいというものを資料として提出させていただいた。

45の事業についての進捗状況については、各事業について深めていくことも大事なため、次回もまた随時報告・検討させていただきたいと考えている。

また、先ほど社会環境調査では説明しなかったが、よく行く場所にショッピングセンターとか、市の花ではサクラとかツツジがメインになっている。それから、各イベントもやっているとか、そういったいろいろな面があるので、そのところも今後いろいろ御意見を頂いて、それをどうやって周知して、それを生物多様性につなげていくかということも御意見を頂きたいと考えている。個別の事業シートについていろいろと御意見を頂きたいなという形で考えているので、また会議前に依頼をさせていただきたい。

今後の検討内容について、飽くまでも尾崎金島の調査を基本的に中心としながら、今後、市民の森整備方針案、さらには、先ほどアンケートにありました市の鳥、市の木とか市の花についての御意見、また、自然環境調査実施内容についても、それぞれ市民会議の中でテーマという形で

お願いして意見を頂き、また、令和9年の中間検証に向けて事業をどうしていくかというのも様々な御意見を頂きたい。以上、次回の会議については8月上旬をめどに開催したいと考えている。

《会長》

皆さんからの御意見を頂き、市民会議らしい会議がスタートできた。それでは事務局の方へ進行をお返しする。

7 閉会

《事務局：野島補佐》

以上をもって、第1回野田市生物多様性の戦略市民会議を終了とする。